【News Release】

報道関係各位（**報道解禁：11 月 27 日 AM 0 時**）

令和 8 年 11 月 24 日 14:00
一般財団法人　沖縄美ら島財団

「西表島だけ」から半世紀 ー
希少な“ナンバンカゴメラン”石垣島の森で初確認！

一般財団法人 沖縄美ら島財団総合研究所（沖縄県本部町）、神戸大学大学院理学研究科（兵庫県）、株式会社スズヤの鈴木幸路氏の研究グループは、これまで日本では西表島でわずかに知られるだけだった国内希少野生動植物種「ナンバンカゴメラン（別名：ナンバンカモメラン）」が石垣島にも産することを、現地での調査で花を含む植物体を調べることで確認しました。

本研究成果は 11 月 27 日午前 0 時に日本植物分類学会の「植物地理・分類研究」に掲載されます。




石垣島で確認したナンバンカゴメランの花（左）と、ビロード状の葉（右）
（自生地にて撮影：沖縄美ら島財団 阿部篤志）

■発表雑誌■

雑誌名：植物地理・分類研究 ／ 掲載号：第 74 巻 第 2 号 219-223 ページ（2026 年）

論文名：ナンバンカゴメラン（ラン科）を石垣島に記録する

A new record of *Macodes petola* (Orchidaceae) from Ishigaki Island, Okinawa Prefecture, Japan

著者名：末次健司[1]・鈴木幸路[2]・阿部篤志[3]・米倉浩司[3]

（[1]神戸大学大学院理学研究科，[2]株式会社スズヤ，[3]（一財）沖縄美ら島財団総合研究所）

■ポイント■

- 日本では沖縄県の西表島だけで知られていた「ナンバンカゴメラン」を、石垣島で初めて確認した。半世紀以上を経て、国内 2 島目の自生地となった。
- 最初に発見された葉だけの個体の情報に基づき、関係機関の許認可の下で開花期に調査を行うことで、確実な分布記録を画像と標本で残した。また、生育環境の記録も行った。
- 本種は、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種に指定されており、環境省レッドリストでも最も高いランクの絶滅危惧 IA 類に選定されている。石垣島で新たに自生地が見つかったものの、確認できた地上の茎は約 30 本で、花をつけていたのは 4 本だけ。今後の保全に向け、関係機関への周知を通じて地域との連携を図るとともに、将来に備えて生息域外保全に取り組んでいく。

■ナンバンカゴメラン（*Macodes petola*）とは■

ジャワ島やボルネオ島、フィリピンなど東南アジアに分布し、湿った森の地面に生えるラン科植物です。本種を含むマコデス属の植物は、ビロードのような葉に金色や銀色の葉脈が浮かび上がることから、近縁のアネクトキルス属やルディシア属などとともに「ジュエルオーキッド（宝石のラン）」と呼ばれ、観賞用としても人気があります。実際に、沖縄県のレッドデータブック（2018 年版）では、園芸目的の採集や自然林の伐採が減少の要因に挙げられています。国内では 1971 年に西表島から初めて報告されて以来、半世紀以上、自生が確認された島は西表島だけでした。

■研究者プロフィール■

〇阿部 篤志（あべ あつし）：沖縄美ら島財団総合研究所 植物研究室 室長兼上席研究員。
2012 年より現職。森林生態学、沖縄県の希少植物の保全を専門。

〇米倉 浩司（よねくら こうじ）：沖縄美ら島財団総合研究所 植物研究室 上席研究員。
2019 年より現職。植物分類学と植物地理学を専門。

＜お問い合わせ＞ 一般財団法人 沖縄美ら島財団 調査企画広報課 松堂・島袋
TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-3085 Mail: oki-pr@okichura.jp